

探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：安芸高田市立美土里中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
安芸高田市立美土里小学校	8	90
安芸高田市立美土里中学校	4	60

(R3.11.1現在)

1 指導上の課題

小学校

これまでの教育課程を見直した結果、以下のような課題があると考えた。

- ①児童の思いや願いよりも指導者の意図を優先させてしまい、児童主体の探究的な学習にアプローチをしようとするものの例年に似たような活動になりがちである。
- ②地域の視点が強く、考えの幅がせまくなっている。
- ③児童は言われたことはできるが、自分で問いを見つけたら、アイデアを出して何かにチャレンジしたりすることは苦手である。

中学校

事前アンケートを行った。次に示す質問事項は、肯定的回答が低かった下位3つである。

- ①「探究的な学習のやり方を他の教科等の学習や生活に役立てている」
 - ②「探究したいことについて比較したり関連付けたりして、理由や根拠を明らかにした」
 - ③「仮説から結論まで筋道を立てて考えた」
- これらのことから、総合的な学習の時間での学びが自分自身の課題になっていないのではないかと考える。

2 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

クリエイティブに思考し、表現する児童生徒の育成
～自分や集団の考えを発展させる
「学び合い」の授業を通して～

(2) 資質・能力の設定について

育成したい資質・能力を論理的思考力・批判的思考力・楽観的思考力とした。

論理的思考力	批判的思考力	楽観的思考力
【小学校低学年】 自分の考えを理由をつけて、順序よく伝えている。	【小学校低学年】 伝え合うために必要な事柄を選んでいる。	【小学校低学年】 興味・関心をもち、挑戦しようとする。
【小学校中学年】 身の回りにある課題に気づき、理由や事例をもとに筋道立てて伝えている。	【小学校中学年】 比較・分類して伝え合う事柄を選んでいる。	【小学校中学年】 自分で決めたことに挑戦しようとする。
【小学校高学年・中学校1年生】 現状から原因を見つけ、自分の考えや思いを広げ、伝えている。	【小学校高学年・中学校1年生】 分類したり関係づけたりして伝え合う内容を検討している。	【小学校高学年・中学校1年生】 失敗をおそれず、積極的に学びを繰り返そうとする。
【中学校2・3年生】 課題に対して、明確な根拠をもって思考・発言している。	【中学校2・3年生】 集めた情報を適切に取捨選択している。	【中学校2・3年生】 成功までのプロセスをイメージし、まずはやってみようとして挑戦している。

(3) 取組について

【探究的な学習の充実に向けての取組】

未来チャレンジ探究学習の取組を進めるうえでのポイントの次のように考えた。

小学校

- ①児童の願いや思いを意識した課題設定にすること
- ②地域で学んだことを他の事と結びつけて取り組むこと (SDGs など)
- ③児童の思いをしっかりと出す場面を設定すること

中学校

- ①自分の学習や生活に役立つよう、「自分事」となる課題にすること
- ②比較したり関連付けたりする場を設定し、理由や根拠を明確にすること
- ③仮説から結論まで論理的に筋道立てて考えるようにすること

【小中連携の取組】

小中9年間を見通して資質・能力が育成できるように次のようなことを行った。

①加配教員の活用

小学校の加配教員が週1回中学校へ行き、全学年のPBLの授業へ参加した。主には、困っている生徒や質問のある生徒へ関わることを行い、中学校の状況を把握した。

②児童生徒の実態を把握するとともに、小・中でどんな単元構成で学習が進められているのかを交流したり、授業参観をしたりした。

③PBLについて、同じ資料をもとに小・中それぞれで校内研修を行った。

【資質・能力の評価】

設定した資質・能力については、次のルーブリック評価表によって評価することとした。

小学校

中学年	ステップ1	ステップ2	ステップ3
論理的思考力	自分の考えを根拠をもとにもつ。	自分の考えを筋道立てて伝えている。	身の回りある課題に気づき、理由や事例をもとに筋道立てて伝えている。
批判的思考力	人の話を考えながら聴く。	自分の考えと人の考えを比較しながら聴く。	比較・分類して伝え合う事柄を選んでいる。
楽観的思考力	自分で取り組むことを決める。	自分の得意・苦手を知り、挑戦しようとする。	自分で決めたことに何回も挑戦しようとする。

高学年	ステップ1	ステップ2	ステップ3
論理的思考力	筋道を立てて考えを伝え合っている。	自分の考えに友達の考えを取り入れている。	現状から原因を見つけ、自分の考えや思いを広げ、伝えている。
批判的思考力	比較している。	比較したものを関係づけている。	比較したり関係づけたりして伝え合う内容を検討している。
楽観的思考力	自分で決めたことに挑戦する。	失敗しても再挑戦する。	失敗をおそれず積極的に学びを繰り返そうとする。

中学校

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
論理的思考力	現状から原因を見つけ、解決方法を考え、伝えている。	課題の解決方法について、データや体験など根拠をもとに、自分の考えを説明している。	課題の解決方法について、データや体験など根拠をもとに、自分の考えを分かりやすい言葉や方法で説明している。	課題の解決方法について、多様な視点からアプローチするなどして、説得力ある説明をしている。
批判的思考力	自分や他者の考えを比較しながら聴いている。	多様な考えを関連付けたり比較したりして考え、自分の意見をもっている。	集めた情報や他者の考えを、妥当性と真偽性の側面から検討をしている。	
楽観的思考力	自分で決めたことに粘り強く挑戦しようとする。	失敗をもとにどうしたらよいか考え、積極的に学びを繰り返すなどして、粘り強く挑戦しようとする。	成功までのプロセスをイメージし、修正すべきことを整理し、やってみようとして粘り強く挑戦しようとしている。	

3 実践事例

【探究的な学習の充実に向けての取組】

小学校 <第4学年>

◆単元名 「だれもが安心してくらせる町」
～防災について考えよう～

・防災について学ぶ中で、自分たちの住んでいる地域の現状はどうかを知りたいという思いをもった。自分たちでアンケートの内容を考え、家族に実施した。そこから今後解決したい課題をみんなで出し合い学習を進めた。

◆学習の流れ

- ①防災ってなんだろう…2時間
 - ②日本の災害について調べよう…4時間
 - ③自分たちが住んでいる美土里町は安全なのか調べよう…11時間
 - ④これまでに学んだことをもとに自分たちができることをまとめ、発信しよう…8時間
- 1学期を終え、更に学習を進めていこうとしていたところ、大きな災害に見舞われ、しばらく学習を進めることができなくなった。しかし3学期、児童の思いを聞く中で、防災の学習をもう一度始めることとなり、取組を再スタートさせた。今年度も地域の方や保護者などの協力を得ながら学習を進めることができている。指導者も児童と一緒に考えたり地域に出かけたりすることで、共に探究することができた。

中学校 <第1学年～第3学年>

◆単元名 「未来チャレンジ」～正解のない探究の旅に出よう～
・生徒にとって「自分事」となる課題にするために、一人一人の興味関心があることを探究することとした。生徒には、「自分のため」「友達や家族などのため」「地域や社会のため」のいずれかの中から、自分が興味あることをウェビング等によって分類し焦点化を行い、探究を進めた。

◆学習の流れ

- ①PBLってなんだろう（ガイダンス等）…1時間
- ②探究するテーマを決めよう…3時間
- ③問いを立てよう…3時間
- ④仮説を立てよう…2時間
- ⑤情報を収集しよう&やってみた！…5時間+夏休み
- ⑥収集した情報を整理分析しよう…5時間
- ⑦仮説交流会で発表しよう…2時間（中間発表会）
- ⑧仮説を見直そう…5時間
- ⑨発表スライドを作成しよう…6時間
- ⑩発表しよう…1時間
- ⑪自分たちの発表を振り返ろう…1時間

【個に応じた指導の充実】

(1) グループの工夫やコーチング

調べたいことや活動内容に応じてグループ編成を行い、児童生徒の思いをもとに活動が進められるようにした。児童生徒の現状を把握しながら、個々の考えを引き出したり、他の児童生徒とつないだりする支援を行った。

(2) 担当者を明確にする

一人の指導者が担当する生徒（6～7名）を決め、担当教師が生徒の相談にのったり、課題解決の考え方や方法の選択肢を示したり、一緒に実験したりするなどして進捗管理を行った。

4 研究の成果と課題等

アンケートを行うと、次のような結果だった。

小学校

		質問の内容	1回目	2回目	伸び
1	主体的な学び	学習する時に、「もっと考えてみたい」「調べてみたい」「工夫してみたい」などを考えています。	85.2	83.7	-1.5
		授業では、友達と話し合うなどして自分の考えを深めたり広げたりしています。	86.4	82.6	-3.8
		授業では、情報を比べたり（比較）、仲間分けをしたり（分類）、関係を見つけたり（関係づけ）して、何が分かるのかを考えています。	83.9	86.0	2.1
4	探究力	授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	79.5	87.2	7.7
		授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。	80.7	79.1	-1.6
6	問題中心の学習	自分には良いところがあります。	79.5	87.2	7.7
		友だちの良いところを見つけることができそうです。	89.8	89.5	-0.3
8		自分の良さは、まわりの人から認められていると思います。	73.6	76.7	3.1

中学校

		質問の内容	1回目	2回目	伸び
1	主体的な学び	課題を自ら設定した。	3.1	3.6	0.5
		自分の生き方を考えたり、自分のこととして取り組んだりした。	3.3	3.3	0.0
		課題に対して、自分なりの考え（新しい考えなど）をもつことができた。	3.4	3.5	0.1
4	学び合い	他者と協力して探究的な学習に取り組んだ。	3.4	3.2	-0.2
5	思考力	いくつかの情報源から情報を収集し、必要に応じて取捨選択したり整理・分析したりした。	3.2	3.3	0.1
探究したいことについて比較したり関係づけたりして、理由や根拠を明らかにした。		3.0	3.2	0.2	
仮説から結論まで筋道を立てて考えた。		3.0	3.1	0.1	
8	表現力	目的に応じて根拠を明確に提示するなど、相手に伝わりやすいよう効果的に表現した。	3.2	3.2	0.0

(1) 成果

・小学校では、9項目中4項目上昇した。「調べたことなどを図、グラフ・表などにまとめる」「自分には良いところがある」の項目が、伸びていた。他教科との関連を意識して調べたことをまとめたこと、総合的な時間の学習だけではなく、教育活動全体の中で児童のよさに目を向けて取組を進めたことがこの結果につながったと考える。

・中学校では、14項目中8項目が上昇し、「課題を自ら設定した」の項目の伸びが大きかった。自分の興味あることを探究したため、ほとんどの生徒が主体的に情報収集を行い、実行に移し、考察まで行うことができた。「自分事」を大切に、個人研究を行った成果だと考える。

(2) 課題

・小学校では、児童の思いや願いから学習を進めたが、主体性な学びの肯定的評価は、8割にとどまっている。まだ、指導者が主導の学習になっているところがあると考える。

・中学校では、一人で研究することになるとどうしてよいか分からない生徒もおり、アドバイス等を行うが、難しさがあった。生徒アンケートにおいて、「他者と協力して探究した」の項目が事後アンケートでは下がっていた。問題を解決するために必要な専門家とのつながりをつくる必要がある。

(3) 今後の改善方策等

・今後も児童生徒の思いや願い、やりたいことから課題を設定する。問いを立てることを丁寧に、自分事となる探究活動を進めていく。

・児童が自分の学びを自覚しながら進めていけるよう、今年度作成した資質・能力をもとに、指導者と児童が話し合い年間を見通した目指す姿を共有する。

・生徒へのアドバイスに戸惑う教師が多かったことから、再度コーチングやPBLについての理解が必要である。

・論理的な思考の練習場面を設定しても良いと感じた。

・問題を解決するため協働する専門家とのつながりをつくることで、他者との協力することのよさを感じさせたい。